

学内選抜入試 Q & A

出願資格	<p>Q. 国際教養学部の3年半卒業で、受験時にはまだ3年生ですが受験できますか？</p> <p>A. 3年半卒業でも卒業見込みであれば、受験することができます。既卒者は対象外です。</p> <p>Q. 5年生でも出願できますか？</p> <p>A. 5年生でも6年生でも卒業見込みであれば出願することができます。</p> <p>Q. 第1回で不合格だった場合も、第2回に出願できますか？</p> <p>A. 出願することができます。</p>
出願方法	<p>Q. 他の大学院とどちらにするか迷っていますが、併願は可能ですか？</p> <p>A. 可能ですが、入学手続きを完了しないと権利を失いますので、ご注意ください。入学手続き後に辞退することは可能で、納めた学費等も原則として返金されます。</p> <p>Q. 出願時に指導教員を決めておかなくてよいですか？</p> <p>A. 決めておく必要はありません。入学後2期目に指導教員を決めます。</p>
提出書類	<p>Q. 推薦書は決まった書式がありますか？</p> <p>A. 所定の書式がありますので、ホームページからダウンロードしてください。入試要項、その他の書式もすべてダウンロードしてください。</p> <p>Q. 推薦状は英語でもよろしいですか？</p> <p>A. 英語でも大丈夫です。日本語または英語で書いてもらってください。</p>
入試問題	<p>Q. 入試問題はどのようなものが出題されますか？</p> <p>A. 知識を問うものではなく、日本語教育についての自分なりの意見や考え方を述べるような小論文形式のものです。</p>
選考方法	<p>Q. 一般入試と学内選抜では選考方法が違いますか？</p> <p>A. 一般入試では大学生にかぎらず現職の日本語教員なども受験するため、小論文形式の問題のほかにはやや専門的な知識を問う入試問題も出題されます。</p> <p>Q. 学内選抜の方が入りやすいですか？</p> <p>A. 学内選抜は日本語教育の背景が無いという前提で行う入学試験です。その反面、一般入試では受験生に日本語教育のやや基礎的な知識があることを意識した入学試験となっています。</p> <p>Q. 受験は卒論を書く前となりますが、卒論の提出とは関係ありませんか？</p> <p>A. 卒業論文提出前に可否を決定しますので、卒業論文の提出は関係ありません。もちろん、卒業論文が不合格となり、卒業できなかった場合には入学資格を失います。</p> <p>Q. 他の大学院も受験している場合、選考に関係がありますか？</p> <p>A. 判断基準にしていません。</p>
履修について	<p>Q. 入学後、教員免許を取得することができますか？</p> <p>A. 教育学部の科目等履修生として「中学1種の国語」「高校1種の国語」を取得することが可能です。その際、教職課程聴講料10,000円が別途必要になります。(※文構、文、一文、二文は出身学部の科目等履修生として可能)</p> <p>Q. 授業はどのような時間帯に行われますか？</p> <p>A. 基本的には1～5時限ですが、演習(ゼミ)は3時限から6時限まであります。また、非常勤講師の担当科目の中には本務校の都合で6時限の場合もあります。</p> <p>Q. 昼間に就業したまま、修士課程に通うことは可能ですか？</p> <p>A. 木曜3～6時限に必修の演習(ゼミ)がありますし、一部の科目を除いてほとんどの科目が1～5時限に開講されるため、難しいと思われます。</p> <p>Q. 入学までに履修できる日本語教育研究科設置科目には聴講料が必要ですか？</p> <p>A. 必要ありません。</p>
海外派遣	<p>Q. 在学中に海外への派遣プログラムに参加するにはどのようにしたらよいのですか？</p> <p>A. 海外の教育機関からオファーがあり、資格条件に合致していれば参加できます。日本語教育研究科からの推薦もあれば、先方への直接応募もあります。派遣プログラムの実施期間によっては、休学する必要があります。</p>
その他	<p>Q. 専門学校日本語教師養成講座で420時間養成コースを受講していますが、メリットになりますか？</p> <p>A. 直接的に受験で優位になることはありませんが、実際の試験や面接時に学んだ知識を生かしてほしいと思います。</p> <p>Q. 日本語教育について何を讀んだらいいですか？</p> <p>A. 1冊の本ではカバーできません。言語、教育、社会などいろいろな分野にまたがっています。一度、書店などの日本語教育のコーナーものぞいてみてください。</p> <p>Q. 30代が多いようですが、会社を辞めて入学した人が多いのですか？</p> <p>A. 会社を辞めた方もいますが、海外の日本語学校で教えていてより専門的な研究をしたい方、子供が大きくなり育児に余裕のできた方など、いろいろな方が入学しています。</p>